

産肉性，抗病性，繁殖性に優れた 新しいランドレース種（ミヤギノL2）の系統造成

畜産試験場

1 取り上げた理由

平成元年に完成した系統豚ミヤギノ（L）を利用した肉豚（LWD）が年間約6万頭生産され、このうち約3万頭が銘柄豚ミヤギノポークとして販売されている。しかしながら、ミヤギノは、系統豚の寿命とされる10年を上回る年数が経過し、近交係数の上昇により、繁殖成績の低下や薄脂による格付け低下が散見されるようになった。

そこで、ミヤギノをベースに国内外の優良種豚や国内の系統豚を基礎豚とし、6年5世代の選抜を経て、産肉性（一日平均増体量，背脂肪厚），抗病性（マイコプラズマ性肺炎への抵抗性），繁殖性（総産子数）に優れた新しいランドレース種の系統を造成したので普及技術とする。

2 普及技術

1) 品種：ランドレース種

2) 名称：ミヤギノL2

3) 特性：

- a 発育（一日平均増体量：DG）に優れている（図1）。
- b 世代を経るにつれマイコプラズマ性肺炎病変スコア（MPSスコア）が低くなり、抗病性について遺伝的能力が高い（図2）。
- c 第4世代の繁殖成績は、平均総産子数で11.7頭である。前ミヤギノ完成世代の10.7頭と比較し1頭増で、離乳頭数では約2頭の増である（表1）。
- d 集団の血縁係数は11.54%，近交係数は2.87%である。

第5世代育成雄，雌および調査豚の能力

形質名	例数	平均値±標準偏差	備考
一日平均増体量	149（育成雄46，育成雌103）	903.9±91.3g	体重30-105kg
背脂肪厚	149（育成雄46，育成雌103）	21.5±3.2mm	体重105kg体長1/2部位
MPSスコア	118（調査豚：舎飼45，ハウス豚舎73）	1.06±1.69	体重105kg
産子数	47（第4世代種雌豚）	11.7±2.4頭	
飼料要求率	46（育成雄）	2.71±0.19	体重30-105kg

3 利活用の留意点

- 1) 図3に示すように、マイコプラズマ性肺炎への抵抗性に対する遺伝的能力を最大限引き出すためには、日頃の衛生管理の徹底や飼養環境の整備が必要である。
- 2) 育成雌豚の配布は平成21年7月からとなる。

（問い合わせ先：畜産試験場種豚家きん部 電話0229-72-3101）

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間：ランドレース種系統造成試験・平成15年～20年
- 2) 参考データ

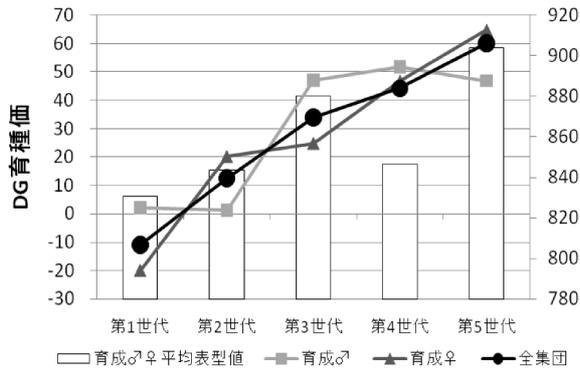


図1 DGの遺伝的能力の推移

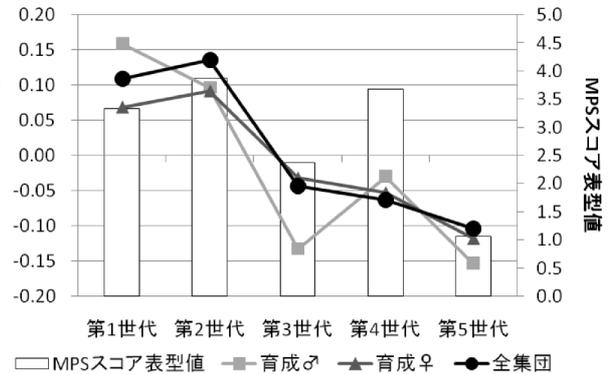


図2 MPSスコアの遺伝的能力の推移

表1 各世代の繁殖成績

世代	腹数 (頭)	交配雄 (頭)	産子数 (頭)	ほ乳開始頭数 (頭)	離乳頭数 (頭)	育成率 (%)	生時体重 (kg)	3週齢時体重 (kg)
基礎世代	33	14	8.2	7.8	7.0	89.9	1.36	5.14
第1世代	50	13	11.8	11.2	9.8	87.5	1.25	5.73
第2世代	44	15	12.0	11.6	10.2	87.9	1.28	5.46
第3世代	48	15	11.3	10.6	9.7	91.0	1.24	5.94
第4世代	47	15	11.7	11.2	10.2	90.9	1.26	5.54
前ミヤギノ 完成世代			10.7	9.6	8.4	83.6	1.2	5.5

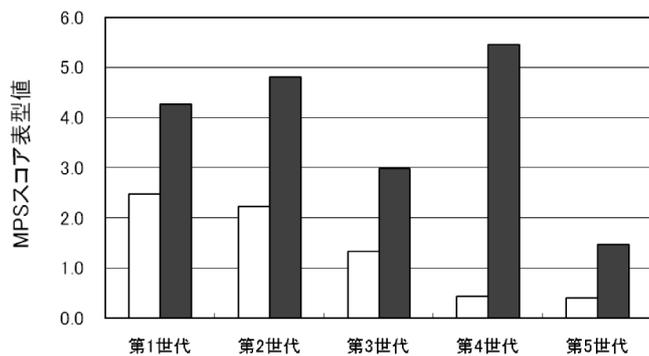


図3 飼養環境の違いによるMPSスコア表型値の世代別推移

- 3) 発表論文等
 - a 平成21年3月系統豚認定申請
 - b その他